

恋愛と合理性

合理的思考の技術 レポート

学籍番号：13_16290

学科：経営システム工学

氏名：脇田哲也

1. 前書き
2. 恋における合理性
 - 2.1. 目的
 - 2.2. 人選方法
3. 恋愛における合理性
 - 3.1. 目的
 - 3.2. 行動方針
4. 恋や恋愛における不合理性
5. 小論「恋は盲目」について
6. 結論
7. 参考文献

1. 前書き

一般的には、諺や合理的思考の技術第二回にあげられていた小論にもあるように、「恋は盲目」と言って合理性とは無縁であるように思える。しかしながら、我々人間は他の動物とは異なり、恋愛における男女間（あるいは同性）の駆け引きがあるように、何も考えず本能的に行動しているとは考え難い。つまり、恋愛において人は何らかの形で合理性を用いているはずである。

そこで本レポートでは、恋や恋愛における合理性と不合理性について説明し、その後小論「恋は盲目」であげられた事例について述べる。

以下恋とは恋人にしたい人の人選段階の状態、恋愛とは付き合っている最中の状態という意味で用いている。

2. 恋における合理性

2.1. 目的

そもそも人が人に恋をする目的は、この人ともっと一緒にいられたらいいな、と言った自身の効用を高めようとするところから始まる。もちろん相手がいい人であればあるほど、自分が得られる効用は高くなるが、自身のポテンシャル（顔、話術、地位、財力…etc）との兼ね合いから、恋人にできる人の範囲も決まってくる。つまり恋をする目的は、自身のポテンシャルという制約条件付きでの効用最大化である。

2.2. 人選方法

恋人にしたい人を選ぶ方法は、必ず相対的に比較するという合理的方法に基づいているはずである。つまりこの人が何となく絶対にいいという、曖昧かつ不明瞭な人選方法はしないということである。なぜなら、まず人は誰も自分が理想とする恋人の像（自分の経験から得られた絶対的な像、いわゆる好みのタイプ）が存在する。もちろん人は日々価値観が変わるので、絶対的な像などないと言われるかもしれないが、短期的に一人の恋をする相手の人選方法のみ考えれば、価値観はあまり変化しないだろう。さて人それぞれ自分の中に絶対的な像があるといったが、現実世界にそのような人はまず存在しない。顔は橋本環奈似、性格は従順で、財力を持ち合わせるため、付き合った暁には働かなくてもいい、なんて人は存在するわけがない。何かしら現実の人は、その理想の像から欠落している箇所があるはずだ。つまり恋をする相手の人選方法は、理想の像とその人を相対的に比較し、そこにある種の妥協を介してなし得ることだと思う。例えば、理想の像を100点とし、そこから妥協点（もうちょっと可愛い方がいいけど、まあいいか）としてマイナス点を加算し、80点以上だから合格、みたいなことを簡略的に心の中でやっているのである。あるいは、もっと簡単にすでに合格した過去の恋人と比較するという方法もあるだろう。

3. 恋愛における合理性

3.1 目的

恋愛に関しても結局のところ、目的は自身の効用を高めることである。仮に恋人の効用を高めることが恋愛の目的だと主張する人がいるならば、それはただの建前である。恋人の効用を高めることで、結果自身は恋人から何らかの効用を得ているはずだ。何の見返りも得られず、ただ一方的に恋人に奉仕するのは恋愛とはいいいがたいだろう。ゆえに恋と恋愛の違いは、ただ二人の関係性がある種の制約条件となっているという点だけで、効用最大化が目的なのは変わらない。

3.2. 行動方針

恋愛における行動方針としては、得られる効用を最大にする際、単純に自分の効用ばかり考え、相手を顧みないで行動をとり続ければ、恋人から嫌われ最悪別れることになるのは目に見えているだろう。そうなれば結局損をするのは自分である。そこで我々は、恋人からは嫌われない範囲内で自分の効用を最大にする、または恋人の効用を高めることによるリターンを得ようと考え、行動するだろう。例えば、中高校生のカップルにおいて、恋人とセックスをすることで効用を得たいと考える者がいたとする。もちろんいきなりそれを求めて行動すれば、かえって嫌われそのチャンスを失ってしまう。そこで恋人の好感度を上げつつ、長期的期間を持ってその行動をとった方がいいと考えるだろう。

4. 恋や恋愛における不合理性

2. や 3. で述べたように恋や恋愛の目的や行動方針は合理性を有していることが分かる。一方で行動そのものに関しては、人は合理性を排除している、というよりできないと私は考える。なぜなら合理的行動というのは、ある種第三者目線からの自身の操作を行うようなことであり、クールネスを保つ必要がある。それに対し、それらの行動の過程は第一人者目線での行動であり、インボルブメントが必要になってくる。

分かりやすくいうなら、現実の恋や恋愛は恋愛シミュレーションゲームと違い、最適行動を選択する考慮時間が短く、瞬発性が求められる。どういう言葉を、どのタイミングで、どういう言い方で返せば、相手との距離が縮められるかを、すぐに決断しなければならない。決断が遅ければ、優柔不断な人だと判断されたり、会話が弾まなかったりと、相手からの好感度が下がってしまうだろう。だからその場その場での、会話や行動がなされるので、後日あの時こうしていればよかったなどと後悔をするのである。

また加えて、人それぞれ価値観が異なるので、どの行動が最適となるのか分からないという面もある。例えば、相手のことを思ってデート中キスするのを我慢したとすると、ある女性にはこの人積極的じゃないなあと思われたり、またある女性には私のこと本当に大切にしてくるんだなあと思われたりするかもしれない。

もちろん相手の思考方法がかなり単純であれば恋や恋愛に不合理性はあまりなく、合理的に突き詰めていけば、相手を簡単に落とせるし、好感度も容易にあげることができるだろう。それもそれでいいと思う。だが個人的には、恋や恋愛を合理性のみで処理できる相手とは恋や恋愛をしたくない。合理性のみで処理できる相手なら、恋愛シミュレーションゲームや風俗等でいくらでも代用できる。

5. 小論「恋は盲目」について

小論「恋は盲目」では、合理的な行動でない例として、自身がバイト先の女に恋をしたとしているが、私自身この人選方法はとても合理的だと思う。まず恋をする際、相手となる人は自分コミュニティの中にしか存在しえない。ゆえに著者が東工大在住という時点で、自身が積極的にコミュニティを広げようとしない限り、インカレの他大学生、バイト先あるいはソーシャルネットワークくらいしかそもそも相手となる人物がいないのである。また相手の女は、自分の恋人としての合格点（いわゆる許容範囲）を必ず超えているはずである。仮に相手の女の顔や性格などを何段階か悪くした時点で、きっと著者は恋から覚めるはずである。つまり、著者は自身のコミュニティの中に、恋人の理想の像と相対比較をした際に、合格点に達した女がいたので恋をした、と言うだけで何ら不合理性はないのである。

6. 結論

恋や恋愛には合理性がないと思われがちだが、実は合理性と不合理性の両者が介在するゲームかつクソゲーである。

7. 参考文献

合理的思考の技術 小論「恋は盲目」